

「評価結果の概要」

センターが把握している圏域の特徴

【圏域の人口等】令和3年4月1日現在

圏域人口：65,998人

高齢者人口：16,288人

高齢化率：24.59%

【圏域の特徴】

・豊中市の北東部に位置し、吹田市にまたがる千里ニュータウンとして万博の頃に開発された校区と、江戸時代からの集落で400年以上の歴史を持つ校区もある圏域となっている。建て替えや新しいマンションの増築があり、高層で重装備なマンションが建築されている。若年層の入居も増えており、人口は、徐々に増加傾向。高齢化率は減少しているが、千里への愛着を持ち、住み続けたい住民は多く、高齢者数は増加している。緑の多い景観で交通の便も良い。高齢になると、坂道や階段が多いことや重装備なつくりが、生活に支障をきたす要因となる場合がある。

センターの取組方針や特徴

【センターの運営方針】

・豊中市地域包括支援センター運営方針に沿って事業計画を立て、取組んでいる。
・「地域包括ケアシステムの構築」をめざし、職員のスキルアップを図り、ネットワーク構築や住民主体の活動をサポートしていく。

【特に力を入れて活動している点】

「地域包括ケアシステム」の実現に向けて

・地域の見守りや支援体制を拡充していくために、関係機関に限らず企業や店舗等にも出向き、声をかけ、点を増やしながら紡ぎ続けている。地域包括支援センターの窓口機能の広報にも力を注いでいる。

・地域ケア会議の取組みや介護予防の講演、とよなかパワーアップ体操の個人での取組み支援を行うことで自立支援浸透に努めている。

【活動の中での課題やその解決策】

課題) 認知症の方や家族への理解、サポート体制が地域の中でも不十分。

解決策) 個別支援はもとより、サポーター養成の実施やカフェの設置等を通じ、地域住民や地元関係機関等が、認知症高齢者や家族の地域資源になり得るよう働きかけを行う。認知症になっても暮らし続けたいまちづくりをめざす。

【特徴的な取組内容】

- ① 地域の多職種連携やケアマネジャーの意識の向上の促進を図るとともに、フィードバック及びアフターフォローを適切に行うことで、連携の継続性の維持に努めています。
- ② 利用者が持つ能力を引き出し、利用者が自己肯定感をもって、積極的に支援計画策定に関与し、利用者が評価可能な内容となるよう努めています。
- ③ 企業や店舗等にも出向き、見守り支え合う体制づくりを行っています。

【さらなる質の向上の余地がある点】

- ① 緊急事案等の際、職員個々が速やかに判断し対応できるよう、スキルアップすることが望まれます。
- ② 介護予防ケアプランを作成する際、利用者や家族の意向と計画目標の関係性をよりわかりやすくすることで利用者が目標を自分で評価しやすくなるとともに、次の計画作成の意欲の向上に資すると考えられ、*自立支援型ケアマネジメントの実施につながります。地域包括支援センターの職員のみならず、委託先のすべての居宅介護支援事業所の介護支援専門員が自立支援型ケアマネジメントを実施できるよう、研修・勉強会等を通じた介護予防ケアプラン作成のさらなる質の向上が望まれます。

*自立支援型ケアマネジメント

自立支援は、単に「できないことを代わりにやる」という意味での支援ではなく、可能な限り自分でできることは自分で対応し、「できないことを可能な限りできるようにするため」の支援のことを言います。自立支援型ケアマネジメントは、自立支援の考えに即して、機能訓練、生活援助や地域参加などのサービスを組み合わせて実施されるケアマネジメントを意味します。

- ③ コロナ禍の中、新しい生活様式をふまえたさらなる取組みの工夫が望まれます。